

○議長（吉田敏郎）

引き続き、一般質問を行います。

9番、石田史行議員、どうぞ。

○9番（石田史行）

皆さん、こんにちは。議員番号9番の石田史行でございます。

それでは、通告に従いまして、府川町政3期目の所信と決意を問うということになります。

今般、府川町政の3期目がスタートし、第五次開成町総合計画後期基本計画に沿って、未来に向けた取り組み、これがなされていくと期待をしております。大変厳しい選挙戦を勝ち抜いた府川町長に改めて敬意を表するとともに、我々議会も、町民から付託を受けた者として町民目線を失うことなく、新しい令和の時代にふさわしい本町の未来を町長とともに切り開いていく覚悟であります。

今後6年間のまちづくりの基本計画は、既に決まっているとはいえ、具体化あるいは道筋をつけるには府川町長の強いリーダーシップ、これが必要であり、府川町政3期目の使命とも言えます。そこで、次の事項を問いたいと思います。1点目、温水施設の広域利用による健康寿命の延伸について、町長の思いとイメージ像は、2点目、使いやすく充実した図書室の整備について、その整備内容の方向性は、3点目、新規バス路線を含む交通アクセスの拡充について、現在の進捗状況と課題は、4点目、ごみ処理体制の広域化の推進について、現在の取り組みと今後のスケジュールは、そして、最後、5点目、足柄上病院の機能堅持と小田原市立病院等との連携強化について、具体的内容は。

以上、登壇からの質問とさせていただきます。答弁、よろしく願いいたします。

○議長（吉田敏郎）

町長。

○町長（府川裕一）

それでは、石田議員の御質問にお答えをいたします。

まず、1点目、私の町長3期目の公約として、皆が生き生きと健康なまちづくりの実現に向けて、温水施設の広域利用による健康寿命の延伸を掲げさせていただきました。

開成町は平たんで自然にも恵まれ、水辺スポーツ公園もあり、町内巡回バス等により交通の利便性も良く、町民の皆さんが気楽に体を動かすことができる環境が整ってはおりますが、近隣の町にあるような公共の温水施設は残念ながら存在はしておりません。利用したい場合には、御自身で交通手段を確保して町外に出向かなければなりません。

町民の皆さんが、このような町外の温水施設を利用することができれば、高齢者の外出や交流のきっかけになり、さらには生きがいにもつながり、健康寿命の延伸にも期待ができると考えております。また、広域連携の良い事例になるのではないかと思います。一つのイメージとしては、毎月1回程度、町のバスを利用して近隣の公共温

水施設に送迎をし、過ごしていただくことを想定しております。もちろん、施設を所有する町に対しても団体利用への御理解をいただく必要があります。また、参加者の募集や参加費用など、詳細については今後、詰める必要があると考えております。

二つ目、開成町民センター図書室は、約4万冊を超える蔵書を備え、1日平均100冊を超える貸し出しを行っております。令和2年度に現在工事を進めている新庁舎が完成した後は、開成町民センター及び開成町保健センター内の事務室を新庁舎に移転することから、その後の開成町民センター等の利活用の方法について、庁内プロジェクトを立ち上げて活用方法の検討を進めてきました。

この結果、平成30年度末に庁内プロジェクトの検討結果が報告をされ、令和2年10月のリニューアルオープンを目指し、開成町民センター内に（仮称）町民活動サポートセンターの設置をはじめ、図書機能の充実を図ることを方針として決めました。この方針の中で、図書機能の充実については、学習環境の向上を目指して町民ニーズに応じた学習スペースを提供すること、あらゆる年代の方が図書に親しめる環境をつくっていくことを柱として方針を決定しました。

細部の具体的な内容については、来年度の予算編成時期までに詰めていくこととしておりますが、社会教育の分野において研究等を行う社会教育委員会議の中でも、図書機能の充実をテーマに調査・研究を進めていると聞いておりますので、このようなことも参考に、教育委員会と調整しながら開成町民センター図書室の充実に努めてまいります。

三つ目、第五次開成町総合計画後期基本計画におきまして、公共交通の充実を詳細施策に掲げ、公共交通の利便性の向上を図ることを基本方針としました。現在の動きとしましては、バス事業者との連携・協力による既存バス路線の維持及び確保を図るとともに、今年3月から急行停車駅となった開成駅のさらなる利便性向上などを目的として、バスやタクシー事業者との意見交換や交通アクセスの拡充に向けた要望活動等に取り組んでおります。

要望活動につきましては、開成駅周辺や都市計画道路等のインフラ整備の進捗状況、急行停車による開成駅の利用者数の増加などさまざまな環境や状況の変化に応じて、将来的な新規バス路線の構築や、バスやタクシーの運行数、停車台数の拡大に向けた取り組みをさらに強化をしてまいります。

交通分野におきましては、人口減少地域における少子高齢化等に伴う交通サービスの縮小や移動そのものの縮小、さらには運転手不足が発生するなど、交通サービスのさまざまな問題が生じております。このような状況に対して、今年度から、国や県、市町村、民間事業者等の関係者間において意見交換や情報共有を実施し、県内全ての地域でスマートモビリティの取り組みを促進することを目的とした「かながわスマートモビリティ研究会」が設置をされたところであります。今後は、研究会への参画を通じて、地域の特性に応じた課題解決に向けた検討や実証実験結果などを参考にした取り組みを促進するなど、広域連携を活用して誰もが移動しやすい公共交通体系の構築に努めてまいります。

四つ目、ごみ処理体制の広域化については、平成25年度から、足柄上地区1市5町によるあしがら上地区資源循環型施設整備調整会議において検討を進めてまいりましたが、平成28年10月に小田原市、南足柄市における中心市のあり方に関する任意協議会が設置された影響等により、調整会議が一時休止となりました。改めて平成30年の執行者会議での議論により調整会議を再開することを決定し、本年の4月から南足柄市環境課内に準備室を設置し、ごみ処理広域化の基本方針となる実施計画、及び具体的な事業施策となる地域計画の策定に取り組みをはじめたところであり、また、令和2年度以降には、事業方式の検討などを含んだ施設整備の方針となる基本計画の策定に取り組むことを予定しております。

今後は、引き続き、広域化のメリットを最大限、生かせる施設の整備に向けて、1市5町で検討を進めてまいります。

最後に五つ目、県西地域2市8町で構成する県西二次保健医療圏は、神奈川県全体の面積の4分の1を占め、足柄上地域の面積も広く、足柄上病院は地域の中核的な総合医療機関となっております。また、二次救急の拠点病院や災害医療拠点病院の指定も受けており、地域の医療をリードする役割を担っております。特に、この地域は分娩可能な医療機関や入院病床を有する小児科の医療機関が非常に少ない地域であることから、安心して子どもを産み育てられる環境づくりのため、周産期医療体制及び小児医療体制の強化を進めていただくように、足柄上病院の医療体制の充実強化については毎年、県への要望を提出しております。

昨年度の要望に対する県の回答では、足柄上病院は、県西二次保健医療圏の中核的な総合医療機関として二次救急の拠点病院、及び産科医療などの提供に努めるよう指導し、特に、産科及び小児科については、地域の特性から医師の確保が困難な状況の中、足柄上病院は助産師による分娩の実施や小田原市立病院などと連携した医療の提供に努めており、こうした努力を引き続き行うよう県立病院機構に伝えていくとの回答がありました。

現在、足柄上病院の小児科については、平成30年4月より、常勤医師1名の採用により平日の昼間のみ診療を行っております。また、産科については、平成29年4月より、常勤医師が不在となったことから助産師による外来に変更されました。いずれにしましても、緊急度や重症度の高い診療については、小田原市立病院との連携により対応を行い、医療水準の維持・向上を図っております。

町としましては、引き続き、足柄上病院が地域の中核的な総合医療機関としての役割をしっかりと果たし、町民が身近な地域で質の高い医療を受けられるようにするため、県、市・町、医師会や病院等で構成する県西地域医療構想調整会議の場などを通じて連携強化を図っていきたいと考えております。

以上であります。よろしくお願いたします。

○議長（吉田敏郎）

石田議員。

○9番（石田史行）

ただいま町長から一定の答弁をいただきました。

再質問に入る前に町長に伺いたいと思うのですが、我が国は、まさに急速な少子高齢化という国難とも言える大きな課題に直面しております。そして、急速な人口減少社会というのも、これも大変大きな課題であります。そういった中で、我が開成町は、人口増加率は県内市町村でも1番、そして出生率も県内市町村で1番、大変すばらしい現状であります。急行停車も決まりました、大変、開成町は、周辺の市町村から見れば、うらやましいといえますか、大変、恵まれている状況にある、非常に勢いがあると言っても私は過言ではないと思うわけであります。

この勢いを持続するためにも、やはり町長にはさまざまな施策を打っていただかなくてはならないと思います。そして、先日の金曜日の議会初日の冒頭、町長からさまざまな公約の要旨を我々議会に発信をしていただきましたけれども、今日、はじめて町長の所信を伺うという方も大勢いらっしゃると思いますので、改めてですけれども、町長は今回、3期目にあたっての公約をさまざま掲げておりますけれども、町長が、この4年間で最優先、最重点と言っても良いかと思いますが、その課題にどのように取り組んでいかれる思いがあるのか、そして、それをどのように具体化されるのか、その決意を改めて発信をしていただきたいと思います。

○議長（吉田敏郎）

町長。

○町長（府川裕一）

先日、一昨日ですか、所信表明をさせていただきましたけれども、傍聴者が実は2名だけでした。本来、ここで改めてさせてもらって聞いていただきたいのですけれども、それだと、もう石田議員の質問が終わってしまいますので、主な私が思っている今、言われた最優先も含めて、そこだけ先にお話をさせていただければなと思います。

特に、今、少子高齢化の中で、開成町は人口も増えて子どもも増えていきます。町長になって、この4年間、特に子育て、子どもの教育も含めて、優先的に集中的に力を入れてきた結果だと思っています。その成果は、みなみ地区に新しい自治会が誕生して、1年経って、総会に出席したときに目の当たりにしたのは、若いお母さんが赤ちゃんを連れて総会に出ていて、入り切れないほど来ていたと。さらに、年齢が40代の人たちが9割以上、みなみ地区に移り住んでもらっているというのは、それは、ある意味、数値的な成果として、この4年でやってきた結果だなと私は思っております。

そういった中で、まだ継続事業がたくさん残っています。特に、北部地域、北部活性化ということで瀬戸屋敷周辺整備を予定してまして、先日の議会でも、その執行事業者の請負契約、皆さん方に認めていただきましたけれども、今年中に駐車場44台、大型バスを4台、とまれるほどの大きさの駐車場に拡大をします。入り口にある今は古い道具館を全て取り壊しをしまして、新しくそこに加工所、直売所、案内所、トイレ等、交流拠点となる施設を今年中につくって、来年のひなまつりには間に合うように工事発注をしております。

そういった中で、それだけではなくて、そこに附随して目の前を通る県道720号

線がありますけれども、カーブしていて見通しが悪くということで、もう県では測量調査をしていただきました。道路の拡幅、歩道整備、これを、できるだけ早く地権者の了解を得て県に工事を、道路整備を進めていただけるように、今、促しをしているところであります。

あわせて、北部地域の人たちの直売所をつくるわけですので、特に、農産物、また年間農産物があるわけではないので、それを加工して年間、売れるように、要は、六次産業化というものを北部の地域の人たちを巻き込んで、いかにそこに盛り込んでいくかということがすごく大事なことでありますし、それが今、継続として残っております。これも、きちんと完成をさせなくてはいけないと思っています。

二つ目は、今、ここにある新庁舎、これも8年前、私が町長になって東日本大震災があったということも含めて、ずっと、この8年間は防災に対して力を入れてきました。その中の一つとして、防災の拠点である役場が機能しなくなったところを東北に見に行ったときに、やはり大変な事業であっても新しい庁舎をつくらなくてはならないという決意のもとで、今、工事も進んで、今年の11月末には大体完成をする。あと細部、引っ越し等も含めて、来年の5月の連休のときに全て引っ越しをして、連休明けに新しい業務開始を目指しております。これも継続事業で、きちんと完成をさせていきたいと思っています。

それから、おかげさまで今年の3月に開成駅に急行がとまりました。多くの皆さんの念願だったということで、今、大変便利になったということで喜びの声をたくさんいただいております。しかし、それに向けて、さらに課題が増えてきましたし、それを急行がとまるにふさわしい開成駅の顔に整備をしていかなければいけないということで、今年1年かけてさまざまな調査をしながら開成駅周辺整備を考えていきたいと思っています。

それにあわせて駅前通り線という、これは役場庁舎よりもっと難事業になるのかなと考えておりますけれども、きちんと区画整理と駅とを結ぶ道路を、令和2年度、区画整理の認可をいただけるような目標で今、進んでおります。そのような形で、駅周辺をこれからも、急行がとまるのを契機に、さらに開成町を元気にしていきたいと思っております。

さまざまな施策はあるのですけれども、今回、3期目で2期目とは違ったところは、広域連携という項目を今回、入れさせていただきました。石田議員の質問の中も、ほとんど広域連携の話になると思うのですけれども、私は、この4年間、さまざまな、2市8町も含めて、市長、町長、また各種団体の長の皆さん、医師会やさまざまな団体がありますけれども、そういう人たちの方とネットワーク、人脈をきちんと、この8年間、つくってきたという自負がありますので。そういうものを生かして広域連携というのは進めていかないと、なかなか効率だけの話では進まない話だと思いますので、そういうところの観点も含めて、今度、3期目は広域連携という項目を入れさせていただきました。その中に、今回の石田議員の質問の中の四つは、その関係になると思いますけれども、そのような形で開成町を今まで以上に元気にしていきたいと思

っております。

以上です。

○議長（吉田敏郎）

石田議員。

○9番（石田史行）

ただいま町長から力強いメッセージをいただきました。我々議会も前向きな提案・提言等を積極的にしていきながら、もちろん町長が今、重点的に取り組まれるべき課題について、我々もヘルプをしながら一緒に形にしていきたいと私は改めて思ったところであります。

あえて注文をつけるとすれば、町の、あるいは町長の発信力、それを、ぜひ一層強化をしていただきたいというのが、私、ちょっと感じておまして、その辺の発信力の強化ということにつきまして、何かあれば、御担当課の説明で構わないので、御説明をいただきたいと思っております。

○議長（吉田敏郎）

町長。

○町長（府川裕一）

今でもさまざま、SNSほか、各種団体の皆さんとの意見交換をしたり、自転車で各地区を回ったり、さまざまなところに自ら出向いて皆さんの御意見を聞きながら。そういうときに、挨拶の中で、今、開成町の動きや、こうしたいということの思いは伝えているつもりですけれども、まだまだ、それが不十分だということであれば、もっともっと積極的にさまざまなところへ出向いたり、さまざまな媒体を活用しながら発信をしていきたいと考えております。

○議長（吉田敏郎）

石田議員。

○9番（石田史行）

失礼しました。府川町長は、私、4年間、御一緒させていただいて、さまざまなことに取り組まれて、そしてさまざまなことについて答えを、解決をしているにもかかわらず、なかなか、それが町民に伝わっていない。やはり、伝わらなければ意味がないと私は思います。町長が一生懸命やっている、そのプロセス、それがもっともっと町民に伝われば、「ああ、府川町長、頑張っているな」ということが、私、町民に伝わってくると思いますし、自然と良い声も上がってくると思いますので、その辺はひとつよろしくお願ひしたいと思っております。

本題に入りますけれども、5点のことについて伺ったところでございます。先ほどの町長のお話の中で、これまでは子育てに関して非常に重点的に予算を投入してきたと、力を入れてきたと。その結果として、子育て世代の方がどんどん、今、みなみ地区を中心に転入が進んでいるというのは、まことにすばらしいことだと私は思います。

ただ、先ほど、足柄上病院のいわゆる周産期医療体制のことについて説明がござい

ました。産む部分、産む部分に関して、今、現状として、平成29年4月から、産科につきまして常勤のお医者さんが不在となって、助産師さんがやっているということでございます。安心して子どもを産み育てられる環境づくりのために、足柄上病院が地域の中核的な総合医療機関としての本来の役割として、産科の常勤の医師がいらっしゃらないというのは、まことに、私は、これから子どもを産もうと考えていらっしゃる若い御夫婦の方々にとっては非常な不安要素だと思うのです。

ですから、その点に関して、要望しているということでございますけれども、これは現在、どのような要望活動を行われて、そして、差し支えのない範囲で構わないので、手応えといいますか、そういったものが御説明をいただけたらと思います。

○議長（吉田敏郎）

保健福祉部長。

○保健福祉部長（亀井知之）

それでは、私から御説明をさせていただきたいと思います。

足柄上病院の産科につきましては、町長がお答えしたとおり、現在、助産師が対応する正常分娩のみ扱うと。異常の場合には、小田原市立病院との連携によって、こちらへ運ばせていただくということになっております。町長の答弁の中では協議会を開いてということがありましたが、それ以前に、もう29年度当時から、1市5町の担当課長または首長が、医師会なり、あるいは病院の院長さんなり、あるいは県を交えて、足柄上病院についての勉強会等を行ってまいりました。

その席で、かなり首長さんからは病院に産科を再開してほしいという御要望を何度も何度もさせていただいて、ただ、県としては、こちらの県西地域の産科の医者がそもそも少ないと。これは、別に県西地区に限ったことではなくて、全国的にそういう状況なのは、それは議員も御承知だと思います。その影響として、28年に秦野赤十字病院も産科からおりてしまった状況があると。

ということで、足柄上病院といたしましては、産科をやめるということは、これはしたくないのだということで、そうなりますと、では、今の産科、何とかそれを保つためには、小田原市立病院と役割分担をせざるを得ないのではないかと。大変なお産の場合には、これは市立病院に持っていきますし、今、実際に非常勤で来てくださっているお医者さんも小田原市立病院からの派遣であると、こういう状況にあるわけです。

別に産科に限らず、小児科医療もそうです。また、高齢化に対応して、この地域は急性期のベッド数については余っていると。急性期以外の高齢の方の慢性期医療に対して、あるいは地域包括ケアに対してのベッド数は少ないと。ちょっといびつな構造になっているということがありまして、いずれにしても県西地域全体で医療分担をしないと難しいという状況になっているということで、単純に産科をしてくださいますとか、あるいは産婦人科の医師を呼んでこいとかという、そういう状況にはなっていないということだけ御理解いただきたい。

いずれにいたしましても、先ほど、町長からも答弁させていただきましたが、今後

も病院、あるいは県、それと、あと小田原市も交えた2市8町で、どういうことができるかについては引き続き検討させていただいて市町村から県に要望を続けていきたい、このように考えてございます。

以上です。

○議長（吉田敏郎）

石田議員。

○9番（石田史行）

今、部長から詳しく説明いただきました。産科の常勤医師がないという問題につきましては、なかなか重たい話でありまして。ただ、なかなか訴訟リスクが高い、いわゆるお医者さんが一番なりたがらないそうなのです。今、産科の先生って。そういう構造上の問題もあるので、なかなか難しい問題があるとは思いますが、足柄上病院というのは足柄上地域にとって本当に大切な病院でありますから、ここで、やはり安心して産むことができるような、これは理想であると思っておりますし、ぜひ、そこに向けて諦めずに。

先ほど、町長がおっしゃったような周辺の首長さんたちのまさにパイプが、この2期8年で相当できあがっていると思っておりますので、これはもう開成町だけの問題ではなくて、この1市5町の首長さんたちにとって大きな取り組むべき課題であると思っておりますので、そこは、きちんと取り組んでいただきたいと思いますところでもあります。

済みません、残り1分になりましたけれども。そうですね。では、せっかくですので、温水施設の健康寿命の延伸について。これは広域連携の話だと思うのですけれども、特に、具体的に後期基本計画に記載されているわけではないのです。これは、町長の選挙の公約として、これを載せられた。そのこのところの思い、それを改めて町長にお話しいただきたいと思います。

○議長（吉田敏郎）

町長、簡潔にお願いします。

○町長（府川裕一）

先ほど、この4年間、子育てを含め子どもを中心に施策をやってきましたけれども、これは、やはり高齢化の中で対象者が増えてくるので、高齢者の皆さんにも元気で健康で長生きをしてもらうというのがすごく大事なことだということの中で、急遽と言うと変な言い方ですが、総合計画ではないところですが、選挙の中で、そのような形で、ないものは借りるという形の中で、それは広域連携の大切な一つだと思うので、これは必ず実現をさせていきたい。それを今、指示したところなので、他町へのお願いもまだしていませんし、庁内の検討結果もまだできあがっておりませんが、来年度の予算以降にちょっと期待を、待っていただければと思います。

以上です。

○議長（吉田敏郎）

これで石田議員の一般質問を終了といたします。